

発達障がい児等支援に係るアンケート調査結果概要【医療機関】

1 アンケートの実施状況について

- ・全 769 機関あて郵送で調査依頼文を送付。調査依頼文には、URLとQRコードを記載し、インターネットから回答する方法を採った。
- ・アンケートは16問から構成され、内容は①発達障がい等の診断対応、待機状況に係ること、②かかりつけ医等発達障がい対応力向上研修に係ること、③「受診サポート手帳」に係ることに分けられる。
- ・回答期間は令和3年4月1日～30日。

2 回答状況について

調査依頼文を送付した769機関のうち183か所から回答があった。(回答率23.7%)
回答の多くが、「発達障がいの診断には対応していない」というもので、これまでに診断に関わったり、診断ができる医療機関に紹介したりしたことがなかった。

3 回答内容について（概要）

(1) 発達障がい等の診断対応、待機状況に係ること

- ・ 回答があった183か所のうち、発達障がいの診断に対応していると回答したのは25件。ただし、診断に対応していない医療機関でも16件で専門的な医療機関へ紹介した実績があった。
- ・ 受診の待機状況について、一番多いところで130人の待機が生じた時期があったが、現在の待機状況は改善されており、一番多いところでも40人、3～4か月との回答であった。

(2) かかりつけ医等発達障がい対応力向上研修に係ること

- ・ これまでに研修に参加したことがあると答えたのは34か所。中には耳鼻咽喉科や皮膚科等、直接発達障がいに関係のない診療科からの参加もあった。
- ・ 参加したことがないと回答した144か所が研修を受講しない理由として最も多く挙げたのが「受ける必要性を感じない」というもの。直接発達障がいに関係ない診療科では受講意欲が低いことが見て取れた。

(3) 「受診サポート手帳」に係ること

- ・ 「手帳を活用している」と答えたのはわずか7件。回答があった医療機関に占める割合は3%という結果になった。また、知っているが活用していない、と答えた医療機関も14件あったが、「使用する必要性を感じない」、「どこに手帳があるのか分からない」といった回答だった。